

## 2月16日付の銅合金地金標準販売価格を決定

近畿青銅会(高木健会長)は、2月16日付の銅合金地金標準販売価格を決定した。

販売価格は次の通り。

(単位：キロ当たり円、カッコ内は前回比)

◇青銅BC1種=640円(+25)

◇青銅BC2種=765円(+35)

◇青銅BC3種=800円(+35)

◇青銅BC6種=690円(+30)

◇青銅BC7種=715円(+30)

◇黄銅YBSC3種=560円(+20)

◇鉛青銅LBC3種=775円(+35)

◇りん青銅PBC2種=815円(+35)

## 1月のアルミレポートおよび2月の見通し(上)

橋本アルミ(株) 橋本健一郎氏



### 予測レンジ

LME	現物後場買い1400-1550ドル	↑ 弱い
	スクラップ -5から-10円(前月最終価格より)	↑ 弱い
為替	117-123円(一か月間)	↑ 円高

### ■概況

前半は、ドル安 上海株の反発、原油の続伸31ドル台や NYダウの反発、2015年通年の独GDPが前年比1.7%増加で4年ぶりの高い伸びだった事などのプラス材料もあったが、12月の中国製造業PMIは48.2に低下、景気縮小拡大の分岐点とされる50を10か月連続で下回ったこと。12月の中国サービス部門PMIは50.2に低下、2014年7月以来の低水準となったことなどを嫌気しDOWN。

1月15日時点1489.5ドル(現物後場買い)と月初価格から17ドルDOWNの前半締めとなった。

後半は、1月の中国政府発表の月のPMIは49.4に低下、予想の49.6を下回った事、1月の米ISM製造業景況指数は48.2に低下、予想の48.4を下回ったこと、ECBの金融緩和が日銀ほど積極的ではないとの観測などのマイナス材料もあったが、日銀がマイナス金利を導入した事、先日発表の10-12月期の中国GDPが+6.9%と7%を割り込んだもののそれに伴う景気対策期待、NYダウも16000ドル台回復しことからUP

2月1日現在LME(現物後場)1439ドルと後半スタート価格から14ドルDOWNしてのスタートとなった。

### ■前月の経済指標

#### ◆月間のドル/円レート(TTS)

121.25 → 122.07(円)

#### ◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると自動車生産台数は前年比-2.3%の76万7052台であった。

#### ◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると自動車販売台数(軽除く)は前年比+0.2%の23万7661台。

#### ◆新設住宅着工戸数

国土交通省統計によると新設住宅着工戸数は前年比-1.3%の7万5452戸であった。

#### ◆貿易指標

##### 輸出

財務省貿易統計によれば輸出はアルミ新地金が前年比-48.6%の90t、2次合金が+28.9%の1615t、前月比でスクラップが+11.2%の7935t アルミ缶が+6.2%の4264t。

※15年1月からスクラップがスクラップとアルミ缶に仕分けされたため前年比との比較ができず前月比にしております。

##### 輸入

輸入は新地金が前年比-14.2%の10万3151t、2次合金が-13.2%の8万7431t、スクラップが-46%の750t、合金スクラップは-44.9%の3608t。

#### ■前月の国内指標

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば板類・押出生産合計は前年比-0.2%の16万454t

日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム2次合金 同合金地金等生産実績は前年比-6.1%の6万2157であった。

#### ■概況

##### 【自動車生産】

12月の四輪車生産台数は749,693台で、前年同月の767,052台に比べて17,359台・2.3%の減少となり、2ヵ月ぶりに前年同月を下回った。

12月の車種別生産台数と前年同月比は次のとおり。

1. 乗用車-641,058台で8,179台・1.3%の減少となり、3ヵ月ぶりにマイナス。このうち普通車は399,772台で38,365台・10.6%の増加、小型四輪車は119,410台で10,268台・7.9%の減少、軽四輪車は121,876台で36,276台・22.9%の

減少。

2. トラック-98,214台で9,063台・8.4%の減少となり、8ヵ月連続のマイナス。このうち普通車は41,697台で7,637台・15.5%の減少、小型四輪車は25,666台で2,074台・8.8%の増加。軽四輪車は30,851台で3,500台・10.2%の減少。

3. バス-10,421台で117台・1.1%の減少となり、2ヵ月ぶりにマイナス。このうち大型は860台で186台・17.8%の減少、小型は9,561台で69台・0.7%の増加。

12月の国内需要は369,460台で、前年同月比14.5%の減少であった。

(うち乗用車307,859台で前年同月比14.6%の減少、トラック60,485台で同14.5%の減少、バス1,116台で同34.6%の増加。)

輸出は前年同月比8.1%の増加。(実績)

#### 【自動車販売】

1月の国内自動車販売台数(軽は除く)は23万7661台で前年比+0.2%。

3ヵ月連続プラス

内 乗用車	+1.3%
貨物	-8.7%
バス	+32.2%

#### 【住宅着工数】

・平成27年12月の住宅着工戸数は75,452戸で、前年同月比で1.3%減となった。また、季節調整済

年率換算値では8

6.0万戸(前月比2.2%減)となった。

・利用関係別にみると、実数値では、前年同月比で貸家が増、持家、分譲住宅が減となった。季節調整値についても、前月比で貸家が増、持家、分譲住宅が減となった。

(持家)

前年同月比では8ヵ月ぶりの減少(前年同月比5.4%減、季節調整値の前月比では5.1%減)。

(貸家)

前年同月比では2ヵ月連続の増加(前年同月比3.9%増、季節調整値の前月比では1.4%増)。

(分譲住宅)

前年同月比では2ヵ月ぶりの減少(前年同月比3.5%減、季節調整値の前月比では6.1%減)。

(分譲マンション)

前年同月比では4ヵ月連続の減少(前年同月比13.5%減)。

(分譲一戸建住宅)

前年同月比では2ヵ月連続の増加(前年同月比3.9%増)。

※(下)は明日以降の紙面で掲載させていただきます。

## 15年の貴金属リサイクル買取実績を発表 田中貴金属

田中貴金属工業株式会社(本社・千代田区丸の内、代表取締役社長執行役員・田苗 明)は、2009年6月23日からサービスを開始した、貴金属ジュエリーリサイクルシステム『RE:TANAKA』の年間(15年1月~12月)の買取実績をまとめた。

金、プラチナ、銀それぞれの15年の年間買取実績は、14年の年間買取実績と比べて金が7.5%減少、プラチナが31.7%減少、銀が20.2%減少した。金の買取量は7月以降、金の国内価格が緩やかに下落したことで、上期(15年1月~6月)に対し、下期(15年7月~12月)は18.9%減少となった。プラチナの買取量は、年間を通じてプラチナ国内価格が下落したことにより、上期に対し、下期は37.4%の減少となった。15年は、世界経済の動向や、金とプラチナの価格が逆転したことに消費者が敏感に反応し、様子見の傾向がうかがえた形となった。

田中貴金属工業が15年1月から12月までに回収した『RE:TANAKA』での金の買取実績は約1.9トン、プラチナの買取実績は約0.3トン、銀の買取実績は約1.0トンで、3品種の合計買取実績は約3.1トンとなった。金鉱山から採掘される金鉱石

1トンに含まれる金の含有量を約7gとすると、この1年間で回収した金の総量約1.9トンは、金鉱石約27.1万トン分。プラチナ鉱石1トンに含まれるプラチナの含有量を約5gとすると、1年間で回収したプラチナの総量約0.3トンは、プラチナ鉱石約5.3万トン分に相当する。

15年の金の国内価格は、1月23日に15年の最高値となる4,985円/g円をつけるも、その後下落基調で進み、米連邦準備理事会(FRB)が年内に利上げを発表することを示唆したことで、12月15日には15年の最安値となる4,184円/gとなった。15年の1年間における金の国内平均価格は4,564円/gで14年の年間平均価格4,340円/gを約220円上回った。

一方、プラチナの国内価格は、世界的な景気減速への不安感に加え、独フォルクスワーゲン社のディーゼル車排ガス不正問題の発覚を背景に下落を続け、12月14日には15年の最安値となる3,367円/gとなりました。15年の1年間におけるプラチナの国内平均価格は、4,265円/gで、14年の年間平均価格4,759円/gを約550円下回った。